

『印度学仏教学研究』論文・抄録の執筆に関する注意事項

<和文・欧文共通の規範>

【1】執筆の規範

- (1) 論文の構成は下記の順序とすること。
 題目、執筆者名、本文、注、略号、参考文献、研究助成金関連の情報、キーワード、所属・肩書き・学位
- (2) 母国語としない言語(和文・欧文)で執筆する場合、ネイティブスピーカーによる添削・校閲を必須とする。
- (3) 連番の論文題目は不可とする。
- (4) 章番号は、縦書では漢数字、横書では算用数字で表記すること。
- (5) 文中の数字は、縦書では原則として漢数字を、横書では原則として算用数字を使用すること(熟語、成句、慣用句、固有名詞などに含まれる数字はその限りではない)。
- (6) 一般的でない略号を使用する場合、論文中で対応関係を明示すること。
- (7) 旧字体と新字体を混在させないこと(書名・人名・地名などの固有名詞はその限りではない)。また、拡張新字体は原則として使用しないこと。
- (8) 引用文を省略するなどの際、二点リーダー、三点リーダー、又はその二倍のリーダーを使用し、論文中で統一すること(中黒三つでの代用は不可とする)。
- (9) 文や単語を強調するなどの際には、傍線、傍点、太字を使用すること(網掛けや囲い線などの使用は不可とする)。
- (10) ☆、■ など論文として不適切な記号を使用することは不可とする。
- (11) 注番号のみを載せ、注を省略することは不可とする。

【2】引用および参考文献の書き方

- (12) 参考文献については、『『印度学仏教学研究』参考文献書式についての注意事項』にしたがい、必ず記載すること。
- (13) 注の最後には原則として句点又はピリオドを付けること。

<欧文論文・英文抄録の規範>

欧文論文、英文抄録を執筆する際は、以下の点にも注意すること。

- (14) 主題と副題の間はコロン(:)で区切り、単語の頭文字は原則として大文字とすること(冠詞や前置詞、接続詞、原語はその限りではない)。
- (15) 執筆者の姓・名の順序は母語の慣習に従う。
- (16) 日本語はヘボン式でローマ字表記し、長音には長音記号(マクロン)を使用すること。中国語は漢語ピンインでローマ字表記すること(ウェード式での表記は不可とする)。

- (17) 日本語や中国語等をローマ字表記する際、初出の場所では原語も併記すること(日本語、中国語のみを表記することは不可とする)。
- (18) 日本語や中国語等の原文を引用する場合、翻訳も載せること。
- (19) 日本語表記で用いるかぎ括弧(『』、「」)、波ダッシュ(~)、句読点などの全角記号を使用することは原則として不可とする(引用した原文に含まれるものはその限りではない)。
- (20) 引用文中における省略記号はピリオド三つ(. . .)を使用すること(但し、文章の最後を省略する場合は、ピリオド四つ(. . . .)を使用すること)。
- (21) 和書や和雑誌の書誌情報は、ローマ字と共に原語でも併せて表記すること。
- (22) 本文中の注番号は原則としてピリオド、カンマの後に入れること。
- (23) キーワードも原語と共にローマ字でも表記すること。